

おわりに

全国的にシカ、イノシシ等の被害の増加に対応するため、捕獲の必要性が高まっています。しかし、これらの動物を捕獲することは決して簡単ではありません。法令上の許可を得ることから始まり、土地所有者の許可や地元の合意形成、道具や機材の準備、獲物の状況の事前調査、銃の場合は銃の練習や捕獲方法の訓練、わなの設置や餌付け、殺処分、死体の最終処理など、本当に多くの労力が必要です。このような困難に対処した上で、必要な技術や経験があって初めて効率的に捕獲ができるようになります。

増大する捕獲への要請に応じて、このような困難をともなう捕獲を実施したり、その補助をしているのは、狩猟者の方であったり、集落の世話役の方です。それらの方々が、効果的に協力しながら捕獲が進められるようにと、関係者で捕獲の実践を重ねながら実施してきた事業の成果を今回のモノグラフにまとめさせて頂きました。

地域で協力し合い、なるべく多くの方が無理なく実践できるような手法を確立しようというのが一つのコンセプトでした。しかし、野生動物もまた必死に生き延びようとし、相応の運動能力を持っています。きちんとした道具立てや、しっかりとした技術、安全への配慮が必要で、甘く考えるわけにはいきません。皆さんの協力で進められる部分と、しっかりとした技術と経験のある人にきちんと責任を持ってお願いしないといけない部分があります。また、みんなのできる部分でも、かなり手間暇のかかることですから、一部の人に無償の負担ばかりを押しつける訳にはいきません。このような課題を順番に整理して、実践し、またその成果を検証して、多くの皆さんが参加しやすい捕獲技術や役割分担を考えていくのが私達の課題ではないでしょうか。

今回の報告で取り上げた事業では、事業参加集落の方や捕獲班、市町や農林事務所等の担当の方、マイスタースクールの参加者など、多くの参画された皆さんの努力によって大きな成果が上がりました。捕獲に従事し、情報交換ができる仲間も増えつつあります。鳥獣被害対策特措法や鳥獣法の改正など全国的にも体制が整備されつつあります。しかし、それでも、これはまだ対策の初歩段階で、最終的な目的である個体数減少や被害の解消には、まだまだ多くの困難があると思われます。この報告が、皆様の次の段階への取り組みに向けて、少しでも参考になればと願います。

責任編集者 坂田宏志

兵庫県森林動物研究センター
兵庫ワイルドライフモノグラフ 7号

シカ・イノシシの捕獲推進のための技術と体制

2015年3月30日印刷

2015年3月30日発行

編集・発行 兵庫県森林動物研究センター

〒669-3842 兵庫県丹波市青垣町沢野 940

印刷 きくもとグラフィックス株式会社

シカ・イノシシの捕獲推進のための技術と体制

兵庫県森林動物研究センター 兵庫ワイルドライフモノグラフ 7号



〒669-3842 丹波市青垣町沢野 940
TEL 0795-80-5500 FAX 0795-80-5506
940 Sawano, Aogaki, Tanba, Hyogo, Japan 669-3842



Wildlife Management Research Center, Hyogo
Wildlife Monograph of Hyogo, No.7

Methods and a System to Control Sika Deer and Wild Boar Populations